

令和2年度 学校自己評価

丹波篠山市立篠山養護学校

評価 A: ほぼあてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: ほとんどあてはまらない

評価項目

評価

成果・課題・改善策

担当分掌

I 教育課程・学力向上

1	個別の指導計画作成をチームで検討し、内容等を保護者に説明し、共通理解を図りながら作成する。	A	・チームで検討し、個人懇談等で保護者と共通理解を図りながら作成できた。【幼小中学部】 ・個別の指導計画検討期間を3日に絞って設定し、予定を入れたいことを徹底した。 ・年度当初に共通理解を図り、検討期間、時間を確保する必要がある。【教育課程】	教育課程 ・各学部
2	「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」にそって、幼児生や保護者のニーズに対応しながら、的確で効果的な指導と支援を進める。	A	・幼児・児童の実態に対応しながら、保護者の願いを大切に指導・支援ができた。【幼小中学部】 ・家庭訪問、個人懇談等を通して、保護者と連携を取りながら指導計画を作成することができた。【高等部】 ・昨年度B→本年度Aになった。従来よりも「支援計画」「指導計画」が有効に活用されていると言える。【教育支援部】	教育支援 自活・各学部
3	個々の課題を明確にして、その実態や課題に応じた指導内容、指導方法、指導形態を工夫する。	B	・担任と連携し、抽出授業や巡回指導を行いながら、個々の課題に応じて、指導・支援を行うことができた。【自活】 ・今年度から自活担当が1名となった。そのことにより、抽出授業の時間数を減らし、巡回指導の時間を多く設定した。来年度に向け、各学部のニーズに対応できる支援体制を検討していきたい。【自活】 ・話し言葉で指導する場面が多いため、視覚支援や筆談で支援する場面を増やす必要がある【中学部】 ・複数指導、ローテーションによる指導になり、以前よりも更にクラス、小集団、集団内で共通理解を図り、同一歩調で指導をしていく必要がある。【幼小学部】 ・昨年度A→本年度B(A評価20人、B評価21人…拮抗している)になった。工夫したい意欲と、それを保障する時間的余裕が見合っていない現状があると推測される。業務改善と表裏一体ではないだろうか。【教育支援部】 ・生徒の実態がさまざまなので、全体指導をするときは、事前に個々の目標や役割分担を明確にする必要がある。【高等部】 ・グループによる教科の授業は、学期ごとの見直しも含め実態に合った形態、指導を常に検討していくことが必要である。【高等部】	教育支援 自活・各学部
4	自立活動において、外部専門機関との連携を密にし、指導の充実を図る。	A	・自立活動学習会(岡本病院、梶先生)は、各1回ずつ実施し、助言を受け、その後の指導支援に活かすことができた。	自活
5	ねらいや目的を明確にした学校行事・校外学習・学部行事を行い、個々の成長につなげている。	A	・「ねらい」を提示した指導のもと、行事を行っている。しかし、その振り返りについては、「自己評価」を取り入れるなどの改善の余地がある【中学部】 ・難しい状況のもと、工夫して自然体験活動、修学旅行を行い、個々の成長につながった。【幼小学部】 ・感染対策を徹底した上での実施で、本来の目的から少し外れたところもあったが、校外学習は中止にせず実施できたことが良かった。身近な校外学習を考えることができた。【高等部】	各学部
6	委員会活動を中心に、自治活動を活発にし、児童生徒会活動の充実に取り組んでいる。	A	・委員会の数については、児童生徒数も考慮して検討する必要があるが、来年度は現状の委員会数でよい。 ・今年度は、委員長選挙の実施ができた。 ・小学部4年対象の委員会活動の体験日は引き続き設けていく。 ・高等部が主力だが、担任が主担となるのは、負担が大きい。担当の教師で主担や輪番制なども含め協議する。	児童生徒活動
7	地域の教材や人材を積極的に活用して、ふるさと教育をはじめとする体験的学習を推進している。	B	・作業学習と家庭、美術において地域人材を招き、体験的学習を計画的に進められた。【中学部】 ・1学期に王地山焼陶器所に訪問して教えていただき、その後も連絡を取り合いながら、進められている。【高等部】 ・ふるさと教育の中で、食育を行うことができず、推進が難しかった。来年度も、難しい状況になることを見越して計画し、工夫して実施する必要がある。【幼小学部】 ・コロナの影響で人材活用は難しかった。【高等部】	各学部

II キャリア教育・進路指導

8	基本的な生活習慣や生活リズムの確立を図り、自立への基礎的な力を育成する。	A	・特に、食生活の面で家庭との連携を取ることができた。【中学部】 ・幼児のうちから基本的な生活ルールを身につけることは大切なので、引き続き指導をしていく。【幼小学部】 ・不登校傾向にある生徒が登校するなど、教師の働きかけによって一定の成果はあった。 ・高等部では、自立をするための力(基本的な生活習慣やリズム)の育成は、細かな支援指導が必要である。【高等部】	各学部
9	ICF・個別の指導計画及びキャリア教育「つきたい力」リスト・個別のチェックシート等をもとに、発達段階に応じたキャリア教育を推進し、授業改善に取り組んでいる。	A	・個別のチェックシートを利用してアセスメントを行い、授業改善に生かすことができた。今後も利用しやすい形態、効率的な運用方法を検討していく。	キャリア
10	作業学習、職場・施設実習、自然体験等を中心に、体験的な学習の充実に努める。	A	・現場施設実習はコロナ禍の中であったが、企業・事業所の理解と協力のもと実施できた。生徒にとって進路選択・社会参加という視点においても、とても有意義な活動となった。【進路】 ・1・2学期に、作業学習で地域へ向かい、また、3学期には福祉施設に出向いての就労体験ができた。【中学部】 ・将来何に興味を持ち、どんな仕事をしたいのかわからないので、いろいろな体験ができるように体験学習を組み込んでいく。【幼小学部】 ・作業学習では、市役所販売ができたことが良かった。販売の形態を工夫しながら、販売活動を継続したい。生徒のニーズと希望をある程度マッチングできたのではないと思う。【高等部】	各学部・進路
11	外部関係機関との連携を密にして、一貫性のある進路指導ができています。	A	・企業・事業所との連携を密にして生徒個々に応じた進路指導ができています。【進路】 ・丹波篠山市の企業の方に来ていただき、必要な人材や高校生のうちに身につけて欲しい力などを話していただく機会があれば嬉しい。(高等部の生徒も、学校生活で頑張ることや目標が明確になるのではないかと)【高等部】 ・どこで現場、施設実習するのかを、就労を見据え1・2年生時から考え実施していくことが大切である。【高等部】	進路・高等部

III 防災・安全・危機対応・生徒指導・地域との連携

12	学校事故や災害時等の緊急事態発生時の対応・体制づくりが図られている。	B	・災害発生時のマニュアルを、誰もがいつでも確認できるように保管する必要がある。また、避難所開設並びに避難時にあたっては、市の防災担当と連携し、コロナ感染拡大防止の工夫を加えたものに再考していく必要がある。【総務】	総務・医ケア
13	定期的な安全点検の実施、施設・設備の安全管理が図られている。	A	・毎月、複数の目で各施設、設備の点検を行うことができた。手すりや駐輪場など、点検表を編集してから新たに設置されたものが増えてきたので、点検場所・項目等を再編する必要がある。【総務】	保健
14	防犯訓練、避難訓練、救急法の講習会等、関係諸機関と連携して、教職員の実践的な研修や訓練ができています。	A	・コロナ感染拡大防止をする中、可能な範囲で避難訓練や講師を招聘した職員研修などを行うことができた。引き続き感染拡大に注意しながら、安全防災の学習を進めていく必要がある。【総務】 ・コロナ対策で実践的な研修が行えない部分もあったが、研修方法を工夫し緊急時の対応を確認することができた。次年度も引き続き感染症予防を徹底しながらも、研修方法を工夫して実施していく必要がある。【保健】【学校保健】	総務・保健
15	保護者や関係機関との連携を図り、適切な医療的ケアや保健指導が推進できている。	A	・学校での学習と家庭での生活を繋げることが難しい。保護者と連携して継続的に取り組んでいきたい【保健】【学校保健】	医ケア・保健
16	教職員も積極的にPTA活動に参画し、PTA事業の更なる充実を図っている。	B	・通常のPTA活動ができる状況になれば、充実が図れるよう取り組む。しかし、学校行事と同様、活動の精選や縮小の必要性を感じる。【中学部】 ・状況に応じて活動内容の工夫、精選を考えながら、参画する。【幼小学部】 ・PTA活動がほぼ中止だったので、評価の判断が難しい。来年度もコロナの影響を受けることが考えられるので、可能な範囲での活動を計画する必要がある。【高等部】 ・今年度は、PTA行事がなかったので、評価しにくいですが、行事の縮小を図りながら事業の在り方を検討継続していくのが良い。【高等部】	各学部
17	学校運営協議会を通して、地域との連携強化に努めている。	A	・今年度も学校運営協議会主催で、ささよう音楽会を実施できた。	教務
18	いじめ、不登校をなくすことをめざし、きめ細かな生徒指導が全教職員共通理解のもと推進できている。	A	・昨年度に続いて、いじめ事案はなかった。不登校生の解消はできなかったが、昨年度よりも登校日数が増え、より密な関係を家庭・本人と継続して築くことができた。	生徒指導

令和2年度 学校自己評価

丹波篠山市立篠山養護学校

評価 A: ほぼあてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: ほとんどあてはまらない

評価項目	評価	成果・課題・改善策	担当分掌
<b>IV 教職員の資質向上・研究推進</b>			
19	A	特別支援教育研究者や福祉関係者との交流・研修を積極的に行うことで、高い専門性を追求する。 ・昨年度B→本年度Aになった。A評価21人、B評価20人ということで拮抗している。定められた時間枠の中で、十分に専門性を追求するための交流・研修ができていない面がある。【教育支援部】	教育支援
20	A	教職員の資質や専門性の向上を図るため、計画的な校内研修を実施している。 ・計画していた内容の研修ができないこともあったが、コロナ禍の中で新たに実施できた研修もあった。 ・来年度も通常通りの研修ができていくところがあるので、計画の段階から実施内容を精査し、校内研修の精選を行っていきたい。 ・個人で取り組んだ研修なども、職員会議などを利用し、報告伝達していく。	研推
21	A	キャリア教育「つけたい力」リスト・個別のチェックシートをもとに、継続的にキャリア教育の研修を実施する。 今年度も継続して中尾先生の講話を開けたことは、キャリア教育を推進していく上で大きな意味があった。今後も継続し推進の流れをしっかりと作りたい。	キャリア
22	B	研究テーマに沿って、授業力向上に向けた主体的な授業研究ができていない。 ・授業公開を小学部と高等部で開催することができた。できれば各学部1つ授業公開していきたい。【研推】【幼小学部】 ・フォーラムの授業についても在り方を検討していく。【研推】【幼小学部】 ・2学期の忙しい時期に全学部が授業することは限界があるので、1学期などに行うことも検討していく。【研推】 ・中学部は職員数が少ないため、各学部1回ずつの研究授業は負担が大きいと感じる。また、研究テーマを意識した教育活動ができるように、校内複数個所に掲示するなど、研推のアクションがもう少しあった方がいいのではないか。【中学部】 ・キャリア教育、チェックシートとリンクして考えることができた。【高等部】 ・チェックシートの項目、配列等の見直しは必要と考える。【高等部】	研推・各学部
23	B	個々の課題や目標を明確にし、教職員のライフステージに応じた研修ができていない。 ・画一的な研修よりは、日々の教育活動について、意見交換や相談ができる個々のスキルアップの必要性を強く感じている。【中学部】 ・外部の研修に行く機会がなかったのが残念だった。【幼小学部】	各学部
<b>V 課題教育</b>			
24	A	教育活動全体の中で、相手を思いやる心を育て、生命の尊厳や人権尊重の精神を育成している。 ・国際理解教育では、フィリピンの講師の方に来ていただき、異文化に触れることができた。	教務
25	B	発達段階に応じて、情報を主体的に選択し、活用する能力や技術を身につけさせ、情報モラルの教育に取り組んでいる。 ・情報モラル教育では、情報モラル教育アドバイザーの今度珠美さんを講師に招き、中学部・高等部対象の学習会、及び研修会を行うことができた。	情報
26	A	給食指導を中心に、家庭と連携した食育の充実が図られている。 ・コロナ対応を適切に行い、指導の徹底ができた。摂食指導学習会・食生活相談も、幼児生の課題に寄り添い、具体的な指導実践へと繋がった。	食育
27	B	居住地、隣接校交流及び共同学習は、連携を深め、ねらいや活動内容を明確にした交流、共同学習となっている。 ・学部によって交流の有無はあったが、リモート交流など工夫することで、感染防止対策かつ共同学習が果たせたと思う。 ・高等部では、リモート交流を行った。通信の不備など課題はあったが、次年度以降につながる取り組みを行うことができた。 ・中学部では対面交流ができなかった為、手紙やDVD、写真のやり取り、文化祭の小道具作りなど工夫することで交流を行うことができた。	保体
28	A	発達段階に応じて、安全教育・保健指導を実施し、安全で健康な生活が出来る基礎的な能力を育成している。 ・引き続き幼児生の発達段階に応じた安全防災の学習を計画・実施する。そのために、年間計画の見直しを行う。【総務】 ・個々の幼児生の実態に即した個別の保健指導を充実させていく必要があり、幼少期からの継続した指導が重要である。【保健】【学校保健】	総務・保健
<b>VI 学校運営・学校管理</b>			
29	A	学校教育目標・指導の重点を意識し、3か年計画を中心に、その具現化に向けて取り組んでいる。 ・各学部、各部、各委員会において、リーダーを中心に取り組みが進められている。【学校改革】 ・何がどのように「具現化」され続けているかについて、検証していく必要がある。昨年度に比べてできていないとは思えない。【学校改革】	学校改革
30	B	各種委員会・各部会の連携を強化し、校内組織の活性化に努めている。 ・委員会で話したことを、学部会や職員会議等の諸会議で伝えることで、共通理解を図ろうとすることができた。【研推】【キャリア】 ・委員会、部会の内容を学部会で伝えたり、話し合ったりすることができた。【幼小学部】【児生活動部】 ・教育課程委員会、教務部のメンバーを同じにしたことで、連携がとれ仕事がスムーズであった。加えて、会議の回数や時間が短縮され効率的に会議が実施できた。【教務】	各部会・委員会
31	A	学校評価をもとに、教育活動の成果と課題を検証し、改善が図られている。 ・計画的に学校評価の取組を進め、全教職員で成果、課題を確認しながら教育活動をおこなっている。【教務】 ・次年度も継続して、評価項目や内容を検討しながら進めていく。【教務】	教務
32	A	定期的に学校だより・学部通信等を発行し、学校HPの内容を充実させ、保護者や地域への情報発信ができていない。 ・昨年度同様に高い割合でA評価となっている。この取り組みを継続していく。【学校改革】	学校改革
33	A	市内の学校園に対して、専門的な支援や助言を行うなど、特別支援教育のセンター的役割を果たしている。 ・昨年度A→本年度Aだった。センター的役割については大勢の教員が成果ありととらえている。【教育支援部】	教育支援
34	B	ケース会議、研修会、各種行事等を活用して、外部関係機関との情報共有化を図り、連携強化に取り組んでいる。 ・昨年度A→本年度Bだった。コロナ禍にあつて、ケース会議、研修会を開催したり、外部機関と密な連携をとることは難しさや限度がある。【教育支援部】 ・コロナ禍において、できる範囲内での連携が行われたと思うが、たしかに、十分にできなかったのは事実である。【学校改革】	学校改革・教育支援
35	A	学校予算の適正な計画・執行、備品や施設の管理及び充実・改善に努めている。 ・感染症対策・学習保障に係る予算について今年度配当されたが、できる限り早期また適切な時期に執行できた。 ・備品については適正な管理となるように今後も取り組んでいく。	事務
36	B	教職員の勤務時間や働き方を意識し、業務改善に取り組んでいる。 ・業務量を劇的に減らすことは難しいかもしれないが、「これでも十分だ。」という感覚と減らす勇気を多くの教職員が持てるようになる必要がある。【学校改革】 ・放課後、職員室内でデスクワークに集中できる環境を整える。(必要以上の大声での会話や笑い声があるため、場所を変えたりイヤホンをしてデスクワークをしなければならないことがあるなど)【学校改革】	学校改革、検討